

授業科目：口腔外科学

担当教員：外木 守雄，米原 啓之，金子 忠良，清水 治，佐藤 貴子，生木 俊輔，
篠塚 啓二，西久保周一，古川 明彦

授 業 の ね ら い	<p>1. 顎変形症は顎骨の大きさや形，位置などの異常，上下顎関係の異常などによって顎顔面形態異常と咬合異常をきたすものである。その成因や実際に行われる顎矯正手術について学ぶ。また，顎矯正手術時の顎骨の移動量および移動方向と上気道形態および容積の変化量の関係を検討し，睡眠時無呼吸症の改善も考慮した手術前後の気道形態の変化および病態についても学修する。</p> <p>2. 外傷，先天異常および腫瘍切除後には舌，口腔粘膜，顎骨などの組織欠損が見られ，咬合などの口腔機能を回復するための顎骨および軟部組織の再建術が必要となる。この欠損に対して骨造成，骨および人工骨移植による硬組織再建やインプラント埋入による咬合再建など様々な方法が採られる。また軟部組織欠損に対しては遊離植皮術，顕微鏡下血管柄付き皮弁移植や有茎皮弁移植などが行われる。本授業では口腔領域における各種再建手術法を学修するとともに，各種再建手術後の骨再生過程の評価を行い，骨移植術・インプラント埋入術などの術後成績および機能回復の要因を学修する。</p> <p>3. 口腔がんの原発巣と頸部リンパ節転移に対する診断法および治療法を学び，さらに術後化学療法および放射線療法の基礎的知識を学習し，治療成績の向上をいかに図るべきかを検討する。</p>
テ ー マ：	<p>1. 顎矯正手術の実際と手術前後の気道形態の変化</p> <p>2. 睡眠時無呼吸症患者の効率的な顎骨移動に関する検討と病態解明</p> <p>3. 顎骨および口腔軟部組織の再建および咬合機能再建</p> <p>4. 口腔がんにおける新規診断法および治療法の開発</p>
内 容：	<p>1. 顎矯正手術方法，周術期管理について学ぶとともに，手術前後の気道形態の変化に関する理解を深める。</p> <p>2. 睡眠時無呼吸症の病態を理解し，睡眠外科療法としての適正な顎骨移動について学ぶ。</p> <p>3. 顎骨や軟部組織欠損に対する再建手術を検討し，それに基づく創傷治癒過程，骨移植術後の移植骨生着過程，骨延長術後の骨再生様式および術後機能回復に関する理解を深める。</p> <p>4. 口腔がんの診断，治療法について学ぶとともに新たな診断法，治療法を検討する。</p>
成 績 評 価：	<p>各授業終了時に口頭試問を行い評価する。</p>
そ の 他：	<p>適宜手術などへの参加など臨床現場での実習を行う。具体的な臨床例を基にした授業を行うため，授業前に教科書，参考書および関連する論文等により授業分野の内容を理解しておくこと。</p>

